

## Ⅷ 自治公民館活動

### 「目的をもった行事活動を中心とした自治公民館活動」

柳川市 柳川市立豊原校区公民館  
館長 平田 良博

- ① 事業名「豊原夏まつり」
- ② 事業の目的
  - (1) 子どもからお年寄りまでがふれあえる豊原校区民の交流の場をつくり、併せて地域活性化を図る。
  - (2) 「飛び出せ 元気な豊原っ子」を共通テーマとし、子どもたちの思い出づくりの場を地域ぐるみで創出する。
  - (3) まつりのボランティアスタッフとして子どもたちを取り込むことで青少年の健全育成に資する。
- ③ 事業の実施主体  
豊原校区公民館（役員19人、運営委員43人、女性部員9人等）  
※役員のうち10人は自治公民館長。運営委員、女性部員はいずれも自治公民館から選出された者。
- ④ 連携・協力機関・団体等  
豊原小学校、同校PTA、豊原校区子ども会育成会、交通安全協会豊原支部、防犯協会豊原支部、地元幼稚園等
- ⑤ 事業予算

#### (1) 収入

公民館費	900,000円
地元事業所等からの協賛金（約120社・団体）	600,000円
バザー等の益金	300,000円
合 計	1,800,000円

#### (2) 支出

会場設備費（配線工事費、ガス設置料等）	400,000円
打ち上げ花火費	650,000円
催し物経費（バザー食材費、出し物の出演者謝金等）	200,000円
チラシ作製・印刷費（3,000枚）	100,000円
うちわ作製費（2,000本）	150,000円
景品購入費（お楽しみ抽選会用）	70,000円
消耗品費（紙コップ、割りばし等）	110,000円
その他（会場設営スタッフの弁当代等）	120,000円
合 計	1,800,000円

#### ⑥ 実施に至る経緯

##### (1) 契機

豊原校区では長年、青年団が校区の盆踊り大会を主催してきた。その後、婦人

会が引き継いだ。昭和61年、同会から「運営が困難となったため、公民館が主催者になって引き継いでほしい」との要請が校区公民館にあった。

(2) 盆踊り大会から夏まつりへの衣替え

婦人会からの要請について校区公民館内で検討した結果、次の理由により、盆踊り大会ではなく、夏まつりを開催することとし、昭和62年夏に豊原校区公民館主催の「第1回豊原夏まつり」を開催した。

◇盆踊りは成人層を主な対象とした催しであり、子どもからお年寄りまでが集える性格の行事ではなかった。公民館主催の行事とするのであれば、校区内の幅広い年齢層がふれあえる新しい催しを創出し、併せて地域活性化を図る。

◇「飛び出せ 元気な豊原っ子」を共通テーマとし、地元の子どもの思い出づくりの場となる催しを目指す。このため、夏まつりスタート時には「積み木大会」「紙飛行機大会」等、子供向けのプログラムを積極的に盛り込んだ。

⑦ プログラム作成の視点

豊原夏まつりの開催にあたっては、主催者及び協力団体が個々の特性や長所等を生かしつつ、地域が一体となる催しとなるよう心掛けている。役割等の例は次のとおり。

◇地区公民館長＝校区公民館役員として、準備作業及び運営の実働部隊としての役割を担う。

◇豊原小学校＝会場提供及び施設管理。また、教職員もバザー（かき氷、焼きそば等）を出店してまつりを盛り上げる。

◇豊原小学校児童＝4、5、6年生がまつりのポスターを手作りする。

◇豊原小学校PTA＝バザーを出店してまつりを盛り上げる。

◇豊原校区子ども会育成会＝まつりのメインプログラムの一つである「こどもみこしパレード」を担当。10地区ごとに子どもたちが手作りみこしをこしらえ、当日は元気な掛け声とともにまつり会場を練り歩く。

◇交通安全協会豊原支部＝車両の交通整理、駐車場への誘導及び来場者の案内等

◇防犯協会豊原支部＝当日の青少年補導活動等

◇地元幼稚園等＝お遊戯等を披露してまつりを盛り上げる。

⑧ 事業の内容

(1) 主なプログラム

こどもみこしパレード、校区民総おどり、打ち上げ・仕掛け花火、各種バザー、お楽しみ抽選会、盆踊り、園児お遊戯、バンド演奏、太鼓演奏等

(2) 写真



【こどもみこしパレード】



【バザーの例 金魚すくい】



【中学生ボランティアによる着ぐるみ】



【出し物の例 琉球国祭り太鼓】

## ⑨ 事業の成果

- (1) 主目的の一つである子どもたちの思い出づくりの場として欠かすことができない行事に成長している。反応の事例としては、「帰省した際、豊原夏まつりが子どもたちのころのように今も盛大に開催されているのを目にしてうれしかった」等の声が手紙やツイート（インターネット上のつぶやき）等で寄せられている。
- (2) 平成25年8月3日の開催で第26回を数え、子どもからお年寄りまでがふれあえる豊原校区民の親睦の場となっている。
- (3) 毎回約3,500人の来場者でにぎわい、地元事業所等の協力も積極的に行われるなど、豊原校区最大のイベントとして定着し、地域活性化に貢献している。
- (4) 10の地区公民館(自治公民館)がそれぞれの特性や独自性を発揮して、互いに切磋琢磨する気風が生まれるきっかけとなっている。豊原校区では行政区長の約8割を地区公民館長経験者が占めるなど地域のリーダー育成につながっている。
- (5) 一つの大きな催しを協力してやり遂げることで、校区内各種団体間の連携強化と関係の緊密化に役立っている。
- (6) 青少年ボランティアの育成事業は平成13年度から取り組み、毎年15人前後の中学生が、まつりのボランティアスタッフとして参加している。その体験を契機に、多くの子どもたちが地域の行事や活動等に積極的に参画するようになった。今では、そのOB、OGが着実に地域の次期リーダーとして育っている。

## ⑩ その他の事業

豊原校区では、地区公民館が地域のけん引役として機能することを目的に、豊原夏まつりのほかにも、春の「地区対抗球技大会」や秋の「公民館運動会」(地区対抗)、「地域づくり学級」(地区公民館主催の成人学級)等を定期的実施している。

## ⑪ 今後の課題と取り組み

- (1) 意欲のある人材の発掘。そのためには、地区公民館活動が、自らも楽しみつつ、やりがいを感じる内容であり続ける必要がある。
- (2) 地区公民館活動がマンネリ化したり、行事消化型になったりするのを防ぐため、常に改善策を探りながら発展につなげていく。

上記2点を目的とした具体的な取り組みとして、豊原校区公民館では毎年2回(5月と1月ごろ)、全ての運営委員による検証会議を開き、校区及び各地区公民館活動について①目的の再確認②活動結果の検証・反省③改善策の立案-を行っている。

## ⑫ 問合せ先

柳川市教育委員会 教育部 生涯学習課 柳川市立大和公民館

〒832-0252 柳川市大和町栄231番地 電話 0944-76-1116 FAX 0944-75-7550